イタチグモの雄に就いて

八木沼健夫

(大阪市住吉區鷹合町173番地)

イタチグモは1906年 Dönitz 及び Strand 兩氏により *Talanites dorsilineatus* の名のもとに記載されたのであるが，後岸田氏は *Talanites* に屬せしむるを不可なりとし，新しく *Itatsina* 屬を創設され，*Itatsina dorsilineata* なる學名が使用されるやうになつた。其後，植村氏により，分布が論ぜられ，最近には，*Agroeca praticola* と同一種と見做すべきであらうとの見解を發表されたのであるが，以上すべての記載は雌によるものばかりであつた。筆者も *Itatsina* には興味を持つてゐた所が，標本整理の際はからずもイタチグモの成雄のあるを見出した。未だ雄の記載を見ないので，筆者所有の標本をもととして簡單な記載をしておかうと思ふ。これがイタチグモの記載を完全ならしめ，且つタンボグモ(*Agroeca praticola*)との關係を考究する資料ともならば幸である。

記載

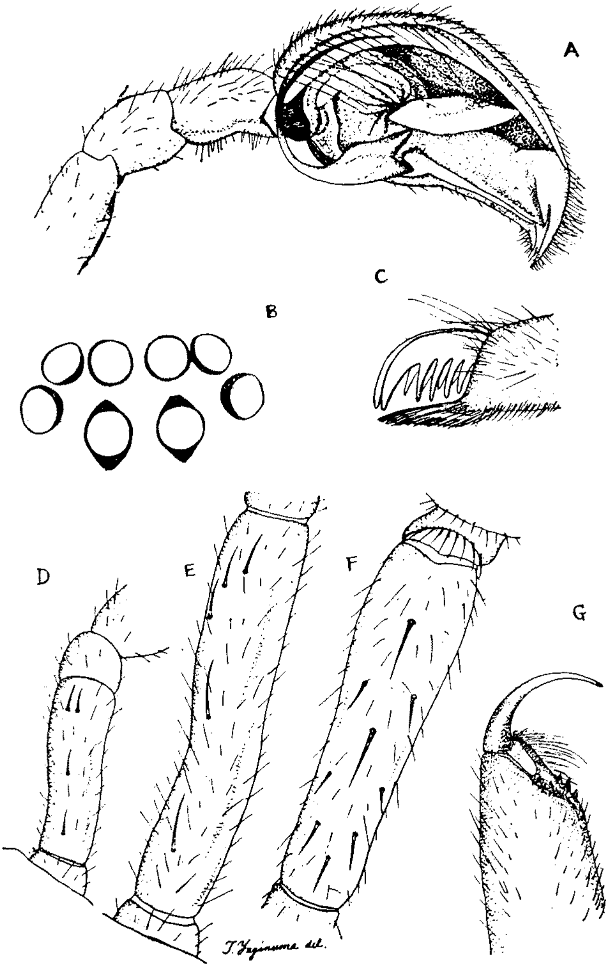
Itatsina dorsilineata (Doenitz et Strand, 1906) **成雄**

〔**産地**〕 大阪市住吉區中野町(草間) 〔**時期**〕 昭和12年8月 〔**標本**〕 筆者標本第185號

〔**測定**〕 (1) 　　　　單位 mm.

全長	背甲		腹部
	長	巾	長
6, 7	3. 2	2. 6	3. 5

Plate 6　　イ　タ　チ　グ　モ



Itatsina dorsilineata ♂ の　A. 觸肢末端　B. 眼域　C. 第1脚端の爪　D. 觸肢腿節上面　E 第1脚腿節上面　F. 第4脚腿節上面　G. 上顎下面

（2） 附屬肢

觸　肢	第 1 脚	第 2 脚	第 3 脚	第 4 脚
3. 8	9. 1	8. 4	7. 5	11. 0

徵標 眼は2列に並び，前列は端直，後列は後曲する。各眼略同大で後列は前列より稍長い。前方より見ると，兩列共中凸であるが，後列條の方が著しい。直眼間はその半徑より稍小なる距離を以て距たる。間眼行は外曲である。直眼第1間眼間は殆ど相接近するも，間隙あり。第2第3間眼間は約1直徑を以て距て，第3間眼間は直徑の約$\frac{1}{2}$の距離を有する。各眼の距離の大小の關係を示すと次の如くになる。（Dは直眼，Iは間眼，數字は間眼の名稱）

$I_2 - I_2 > I_2 - I_1 > I_3 - I_3 > D - D > D - I_1$

直眼は灰色，他は褐色を呈す。中眼域は長さ幅に優り，前邊は後邊より稍小

胸板は第2，第3歩脚に於て最廣で卵形をなす。卽ち前方は鈍く後方にやゝ鋭くとがる。色は黄色で黑褐色の毛を生ず。**下唇**は基部ほそく急に廣がり下底＞上底の梯形をなし上部に多數の毛を有す。長さ巾にまさるも著しくない。

下顎平行せず，下唇より前方は略ぼ平行し，內側に多くの毛を有す。

上顎は前牙堤に3個，後牙堤に2個の齒を有し，前牙堤のものは內方に，後牙堤のものは外方に位置する。前牙堤の3個の中，中央が最大である。**觸肢**腿節上面には基部より數へて，1. 1. 2 の刺がある。

步脚は第4脚が最長。第1步脚の上面には，基部に1. 中央部に1末部に1. 末部の稍內側に2本の刺を有する。第3. 4 脚腿節上面には多數の刺を有する。脚には毛總を有し，末端には毛束を具へ，4齒を有する爪が2個ある。第4脚の蹠節は第1脚の蹠節の約2倍である。

腹部上面は黄色の地に黑色の縱條及び點條を有する。下面も黄色を呈し，中央及び側方に點條を有し，中央はかすかに4點を數へ，側方に數個不明瞭な點條がある。後端には大なる3點あり。（卽ち中央點條の最後のものと，そ

の兩側1個づゝの點である。)

間疣を缺き前疣は圓柱狀で太い。後疣は前疣よりも明に長いが，ほそくて末節は圓錐狀で終つてゐる。

さて，上記の標徵によつて，再び *Agroeca praticola* の記載と照合する時，全くあてはまるのである。しかも，確然とイタチグモの標徵を有してゐる。たゞ眼の排列に於て，各眼の距錐が Dönitz, Strand の記載とやゝ異つてゐるのであるが，その排列の距離の比は全く同じであり，♂と同時に採集した筆者の標本♀の排列とも比に於て一致してゐる。尙，原記には第1步脚，第2步脚の上面に 1．1 の刺を有するとあるが，筆者のものは 1．1．3 となつてゐる。しかしこれは1頭のみを以ては決定的な標徵とはならぬ。個體により多少の相違のあることは認めたり。但し觸肢の 1．1．2 の刺は♀にあつても同じ。疑問とするならば以上の2點位であるが，其他の標徵より見て *Agroeca praticola* と *Itatsina dorsilineata* とは同一種ならんと言ふことは雄と比較しても言へることであつて，植村氏の見解に贊意を有するものである。（但し *Agroeca* と *Itatsina* は同一だとは斷言出來ぬ。たゞ *Agroeca praticola* として記載された蜘蛛と *Talanites dorsilineatus* として記載された蜘蛛とは，同一の種を2様に記載したものであらうと言ふことは出來る）因に♀について附言するならば植村氏の言はれる通り *epigynum* の形，眼の排列は全く *A. praticola* の記載と同じである。（筆者標本 105 號）

參　考　文　獻

1. Abhandl. D. Senckenb. Not. Ges. p. 377 p. 291
2. Lansania Vol. 2. No. 16 p. 81 — p. 87
   岸田久吉——イタチグモの分類上の位置
3. 紀州動植物 Vol. 2. No. 2. p. 9 —— p. 11
   植村利夫——イタチグモの分布
4. Acta arachnologica Vol. 3. No. 1. p. 26 — p. 30
   植村利夫——タンボグモとイタチグモ